時事新報

港灣修築

政府が議會に提出したる新計畫を見るに其規模いづれも狹小にして我輩の失望する所なり抑も一昨年來戰爭の爲めに我國の散出は少額に非ざれども其金は決して若しき算段より支出したるものに非ず國力發達の結果國民銘々の懐に餘裕を生じたる折柄、偶然戰爭の破裂を見たるより競ふて餘裕の金を出し其事を助けたるまでのことにして恰も道樂の爲めに散財したるに異ならず素より償還を望まざるのみか戰爭の結果は彼の通りの次第にして二億兩の償金を收め得たる其償金の中、遼東半島の代償金を併せて現金一億二千萬圓は確に領收して我手中に在り或は其金の處分に就ては種々の説もあるが如しと雖も詰り一場の賭博に勝を得て偶然に儲けたると同樣のものなれば之を目下の必要事に支出して吝しむ所はある可らず左れば事業の計畫に金の一點は掛念するに及ばずとして其計畫は差當り外に對する軍備の擴張と内に於ける實業發達の奬勵とに外ならず我輩は先づ内の事より論ぜんに政府は今回航海業奬勵の爲めに航海奬勵法案幷に造船保護法案を提出したり其細目に就ては自から利害の論もある可しと雖も大體の精神は全く異議なしとして其法にして實際に行はるゝときは海外の航路も次第に開け又造船の業も發達して航海業の隆盛を見るに至ることならん誠に喜ぶ可き次第なれども首を回らして國内の港灣を見れば何れも天然の儘に一任して曾て人工を施したることなきが故に船付の便利甚だ惡しく眞實の良港として見る可きものは一個所もある可らず差當り開港場の有樣を如何と云ふに横濱の如きは前年より築港に着手して今尚ほ工事中のよしなれども其捗取り甚だ遲々としていよ〳〵成功は何年の後に在るや知る可らず其他神戸と云ひ函館と云ひ長崎と云ひ新潟と云ひ一として人工を施したるの港を見ず現に全國第一の市場を控へたる東京灣の如き世人の知る如く遠淺にして船舶は凡そ四五浬の沖に碇泊せざるを得ざる其不便は尚ほ忍ぶ可しとするも少しばかりの風波にも忽ち端舟の往來を絶つが故荷の揚卸の爲めに空しく時日を消費する其不便は容易のものに非ず又冬季の間、北海の航海は難儀なりなど稱すれども其實は海を航するの難きに非ずして港に碇泊するの難きなり今代の船舶を以てすれば北海の風濤敢て意とするに足らざれども彼の新潟港の如き船の碇泊最も困難にして風の方向少しく惡しと見るときは荷卸の半にも忽ち舟を出して佐渡に避けざるを得ず斯くて忽ちに入り忽ちに避け終始出入に忙はしくして全く荷卸を終るには凡そ一個月を費す可しと云ふ即ち冬季に北海航海の難きは海の荒きに非ずして港の惡しきが爲めなりと知る可し國中到處の港灣斯る次第にして一個所の良港をも見出すこと能はずとありては假令ひ航海奬勵の效を奏して海上に船舶の縱横を見るに至るも其船は只海を走るのみにして容易に出入を得ざる其趣は家の玄關より門に至るまでの道路甚だ窮屈にして門前の往來には馬車人力車の通行頻繁なるにも拘はらず僅々たる近距離の窮屈に妨げられて出入の不便を感ずるものに異ならず堪へ難き次第にして斯くては航海の發達も遂に望む可らず英國などの例を見るに其港灣は決して之を天然の形に一任せず何れも人工を施して現在の便利を開きたるものに外ならず器械、工學進歩の今日、金さへ費せば港灣改築の如き容易の業にこそあれば速に着手して人工の良港を造る可し政府の豫算案には函館港修築補助費の目あれども今日の場合に當り函館の一個所に多少の修築を加へたりとて格別の效能もなきことなれば須らく計畫を大にし國中必要の港灣には悉く人工を施して完全の良港と爲す可きものなり其場所を云へば差當り東京大阪を始めとして横濱神戸等の開港場は申す迄もなく國中の大都會を控へたる港灣例へば名古屋の熱田に於ける仙臺の松嶋に於ける如き又その他九州北陸北海の諸港の如き一にして足らず何れも必要の港灣にして何れも改築を要するものなり航海の如き金を給して保護するときは直に發達を見る可しと雖も港灣の修築は場所に由りては工事も困難にして其完成は自から年月を費さゞるを得ず一日も躊躇す可きに非ざれば目下議會の開會中に其事を決して速に着手の運びに至らんこと我輩の希望に堪へざる所なり

雜報

○米國海軍の萎靡　米國海軍大佐マハン氏がハーパース、ウヰークリー雜誌に於て同國海軍の萎靡振はざる所以を痛論して之を擴張するの必要を述べたる其大要に云く

●●●●●●異論者二派あり　抑も米國海軍の振はざる次第は故大統領ジェファーソン氏の説を迷信し態々猛犬を邸内に養ふて終夜咆哮せしむるのみか往々人に害を加ふるに任ぜんより寧ろ門を鎖して他にも迷惑を掛けざると同時に己れも安穩ならんことこそ願はしけれとて自國の海岸を防禦するを以て足れりとする一派と又モンロー氏の超然主義を金科玉條とし東半球と遠く相離れ海外に所領を有せざる其國が莫大の金を費して軍艦を製造し却て事を好むの誹を招くは不利益なりと主張する一派のあればこそ我國の海軍は容易に振はざるなれ現にチャールス、ノードッフ氏の如きは熱心に甲説を唱道する一人なり

●●●●●●時勢の變遷を知らざるべからず　前説は一應その理なきに非ざれども交通の便ます〳〵發達し國交際の頻繁となりたる今日の時勢には假令ひ海外に領土を有せざればとて所詮斯る孤立超然の流儀を行ふを許さず但し今余（マハン大佐）が海軍擴張を論ずるは敢て他國を攻撃せんとするの意に非ず自衞の爲めにも必要なるを信ずればなり　試に近來太平洋の形勢を見るに甚だ不安心なるが上に外交の紛紜、樽俎の間に局を結ぶを得ずして干戈に訴へ雌雄を決するの危機到來せんも計り難ければ兎に角に海軍擴張は目下の急務なる可し

●●●●●●今や老朽艦のみ　南北戰爭に用ひたる米國の殘艦は既に千八百八十三年に老朽して其用に堪へず一朝外國と戰端を開くに當りては斯の如き軍艦のみにては迚も花々しく一戰を試み難し思ふに米國人の海軍に注意せざる其理由は前陳二説の外に千八百十二年英國との戰爭に海軍の効力著るしからざるを見たるに由るならんなれども當時の實况を察すれば海軍の組織頗る不完全なると共に軍艦の數少きより充分その手腕を現はすを得ざりしにも拘らず天晴勇戰したるを鑒みば之を輕んずるの不當なるのみか愈々擴張の必要なるを悟る可き筈なり云々

○院外有志者懇親會　在野黨の院外有志者は來る卅日午前十時より飯田町の富士見樓に大懇親會を開く由

○日本經濟會　は本日午後五時より帝國ホテルに於て新年の第一集會を開き昨年度の會計及び事務の報告を爲し且つ委員の改選をも行ふ筈なりといふ

○松山陽太郎氏の送別會　芝三田慶應義塾生豐民松山棟庵氏の令息陽太郎氏は今度醫學修業の爲め英國に留學するに付氏の知人六七十名は此程芝浦見晴亭に於て盛なる送別の宴を開きたりと

○八代目市川團十郎（其十一）

「海老藏ひとり大きな目」

中村市村兩座は燒失後替地に引移りて普請未だ出來上らず江戸三座の中殘るは木挽町の河原崎座のみなりければ町々の人氣を一手に引受け大繁昌にて天保十三年正月には「誂海老曾我門松」を出し八代目の曾我十郎役評善く三月狂言には目先を替へて「岩藤浪白石」二番目歌舞伎十八番の内「景清」を出し八代目父子共に舞臺に上り總座中大喜悦にて口上看板には故人五代目白猿の寫姿を描き左の文言を認めたり

當座に於て御評判に預り候歌舞伎十八番の内景清此度海老藏に相勸めさせ至て古雅なる狂言にて御目まだるいがちに候へ共市川流家の藝に候へば宜敷御評判願上げ候且つ一番目は海老藏趣向鏡山へ江戸の馬（作者）白石噺しは難波の一鳳（同上）右兩人増補致し候

牢破り惡七兵衛は白猿出精にて評判の藝なるが此時海老藏も亦白猿の仕來に從ひ大薩摩常盤津出語にて勤め八代目は仁田四郎に扮し又五百崎求馬、鞠ヶ瀬秋夜等の諸役を勤めはか〳〵の役者馬足に至るまで一同車輪になりて働きければ喝采の聲斷ふる間なく滅法界の大當大評判なりしが此狂言後六月二十六日に至り海老藏奢侈の咎めにて江戸十里四方追放の刑に處せられぬ

深川鴨田町熊藏地借重兵衛方同居

歌舞伎役者　海老藏

右之者儀家作の儀は長押塗かまち等不相成雛併に道具の儀も結構に致間敷旨前々より町觸有之處その者も業體の儀は時の風俗に專ら表向を飾り不申ては贔負も薄く道具類も右に準じ金高の品に無之ては融通も不宜候とて右町觸に背き居宅長押床塗かまちに致し赤銅七々子の釘隱打付け庭向へは御影石燈籠其外大石數多さし置き又は同所土藏内へ不動の像を飾り莊嚴向總金箔彫物有之須彌檀朱塗彫物金泥格天井に致し（中略）其上狂言に用ひ候品々も一通りにては見物人の氣に入る間敷と存じ革製具足一領幷に鐵にて甲無之具足一領何れも武用の品を所持致し狂言に相用ひ候處（中略）去る丑十月質素儉約被仰出候に付き相濟ざる儀と後悔致し居宅向造作等取崩し候塲合も有之候へども右躰身分も顧みず奢侈潛上の至り殊に先年より買置き候高さ一丈七尺の石燈籠一對深川永代寺境内に於て開帳有之候へ奉納可致と高價の品境内へ差置き候段　旁不届に付き町觸に背き候品幷に居宅取崩し候木品共取上げ江戸十里四方追放

金箔の不動尊、金泥の須彌檀、具足二領、丈七の石燈籠今から見れば何でも無きことなれども當時は身分不相應の奢侈と云はれしなるべし兎も角も水野の鐵壓令は着々効目ありて前には中村市村兩座を押拂ひ今又役者の[illegible]海老藏を用捨もなく擯[illegible]方ならず海老藏は即時江戸を[illegible]山内延命院の地藏堂に引籠り[illegible]こく勤めし軈て一家の活計、八代目が細腕一本に取引き是辛苦を嘗めたりけり

○浄瑠璃の[illegible]

第八回　情は知らぬ[illegible]

斯くてお冬は月の前に唯一人[illegible]しが羨むは盜むの本とさへな[illegible]にこそ左るにても僅一地方の[illegible]醜貞光を斯くまで高貴の身と[illegible]や十六歳未滿の一少婦、松岡[illegible]て只管に大家の奥方と人に呼[illegible]は矢も楯も堪らず遂に身分不[illegible]なければ畢竟是れ誰が罪ぞや君[illegible]誤る哀は少女の身上にこそあ[illegible]兎角する内お冬は曩に因果の[illegible]更に心中痛く驚けど左わらぬ[illegible]と信しやかに説て云ふやう[illegible]約束通り御身を吾夫人とせん[illegible]と云へど苟も判事たる身の奴[illegible]は何分世間へ顔出しも出來ず[illegible]へ送屆けて其が娘分の吾に嫁[illegible]處の所を良く聞分けて夫れく[illegible]まで長くとは云はぬ四五日の[illegible]呉れまいか

と他事なき頼みにお冬は暫時の[illegible]く泣く之を承引きけり貞光は[illegible]假令ひ如何なる人の娘分とし[illegible]ゝの基なり剰へ成年未滿の女[illegible]たらんには相手の貴賤に別なく[illegible]必定、此事は色も戀も思切り[illegible]れ冬を無條件讓切の約束にて[illegible]々直安に賣飛ばしたり

斯くとも知らぬお冬は先方へ行[illegible]なく貞光が方より歸りの程を[illegible]

○十年前の挨拶　（支那風[illegible]